

横浜市環境創造審議会 第6回 基本政策部会 会議録	
日時	平成25年9月26日(木) 10時00分～11時45分
開催場所	関内中央ビル(3階 3A会議室)
出席者	進士五十八、亀屋隆志、小堀洋美、佐土原聡(4名)*敬称略
欠席者	織朱實(1名)*敬称略
開催形態	公開(傍聴人 なし)
議題	(1) これからの環境行政のあり方について
決定事項	—
議事	<p><b>開会</b></p> <p><b>議事</b></p> <p>(1) これからの環境行政のあり方について</p> <p>(事務局) 資料3、4、5、6の説明</p> <p>(佐土原委員) インターネットでのアンケート調査のため、Q17の必要な情報が得られているかという質問に対する回答にはバイアスがかかっていることを考慮すべきと考えます。</p> <p>アンケート調査の結果から、生物多様性に関する意識が下がっていることを横浜市として危惧されているようですが、一方で、緑の保全、創出については関心が高いという結果になっています。この結果から、緑と生物多様性の関係性が十分に市民に理解されていないと考えられます。そのため、緑と生物多様性の関係性を分かりやすく説明することで、生物多様性に関する関心が高まるのではないのでしょうか。</p> <p>(亀屋委員) アンケート調査の結果から、市民に伝わっていない取組があると思われます。行政と市民の意識のギャップの大きいところを整理し、そのギャップを埋める取組を進めてはどうでしょうか。</p> <p>(小堀委員) Q34の横浜市に優先的に取り組んで欲しい取組で回答の多い、「公園や道路、河川沿いの緑の保全・創出」は、生物多様性の保全、創出にも関係する内容です。</p> <p>横浜市がどのようにアンケート調査結果をとりまとめたかが明確でないため、回答者にとって答えにくい選択肢になっているのではないのでしょうか。</p> <p>Q34の結果だけから生物多様性に対する意識が低いと言い切ることはできないと考えます。生物多様性は理解されにくい内容であることを踏まえて、アンケート調査を行うことが必要です。</p> <p>関心のない人に関心を持ってもらうことはとても難しいことですが、アンケート調査の結果では、横浜市には環境に関する関心がある人が多いという結果になっています。「関心があるが何もしていない」という人を行動に誘導するための取組を考えていくことが必要だということだと思います。</p> <p>(進士部会長) Q33の横浜市が行っている取組に対する満足度に関する調査結果を見ると、「まちの美化」や「横浜らしい景観の保全」などアーバンデザイン系の満足度は高いですが、緑に関する取組の満足度は低い状況です。これは</p>

	<p>注目すべき結果であると思います。この結果は、都心部の緑の創出の状況にも関係するのではないのでしょうか。</p> <p>生物多様性という言葉の認知度にだけ注目しないほうが良いと思います。私は、生物多様性という言葉が市民にとって分かりにくいいため、生物多様性の状況に対する危機感を市民が持っていないのではないかと考えています。生物多様性の内容の理解が進めば、危機感が増すと考えられます。分かりにくい言葉を分かってもらえるようにすることは、プロモーションの課題だと思います。</p> <p>生態学を専門とする有識者の中には、農業従事者の生物多様性に対する意識が低いと指摘する方がいます。農業従事者は生物多様性という視点を持っていなくても普通であると思います。生物多様性という言葉を知っているかどうか、理解しているかどうかは、所属している集団によって異なります。多様化している社会において、一方向からの視点で見て判断することは良くないと思います。</p> <p>生物多様性の危機や地球温暖化が災害につながる大きな問題であるという認識を持つことは必要であると思います。そのためにプロモーションが必要であると考えます。</p> <p>横浜市では、様々なイベントを開催していますが、その効果はいかがでしょうか。</p> <p>(事務局) 横浜市は、2012年に生物多様性自治体ネットワークの代表になったこともあり、生物多様性をテーマにしたイベントを積極的に開催してきました。環境省とも連携してプロモーション、PRしています。ただし、それが一過性で終わっている点が懸念事項であると考えています。</p> <p>プロモーションの中で、生物多様性を概念的に説明しても市民に理解していただけないことが多いため、実際にフィールドに出て理解していただく取組を進めています。例えば、田んぼの生き物調査を実施し、小学生に生き物の重要性を知ってもらうような取組を進めています。取組は進めているのですが、実績値としてはまだ現れていません。現在の取組を継続するとともに、取組に工夫が必要であると考えています。</p> <p>(進士部会長) 横浜市で様々なイベントを開催しているということでしたが、そのイベントは市民が参加したいと思える内容になっているのでしょうか。また、行動につながる内容になっているのでしょうか。</p> <p>イベントによっては、市民にとって身近な問題ではなく、世界的な動きから話が始まる場合がありますが、市民が実感できる内容とすることが必要だと思います。市民にとって身近な生物多様性に関連する内容は、地場産の野菜などです。農地が保全されて、水源になっている森も守られて、その結果、地場産の野菜が作られる、といった市民が身近に感じられる話をしなければ、市民は実感を持ってません。</p> <p>先日、福井県でのイベントで、実際に活動を行っている方にパネリストになっていただきました。水が必須である酒屋と提携して自然環境の保全活</p>
--	--

	<p>動を行い、お酒を飲むことで水源涵養のための資金を集めるという仕組みをつくったことを紹介しました。このように具体的な話にすると皆が興味を持ちやすくなると思います。</p> <p>(事務局) 昨年のヨコハマbフェスティバルでは、実際に活動を行っている市民活動団体や事業者に集まっていたき、パネルディスカッションを実施しました。実際行っている内容であったため、市民の方に大変興味を持っていただけたと思っています。今後も市民の方に興味を持っていただける内容のイベントとすることが重要であると思っています。</p> <p>(進士部会長) 以前の会議で小堀委員から意見がありましたが、子どもが参加する調査も重要な取組だと思っています。時間を必要としますが、その分、丁寧に生物多様性について教えることができます。目的によって取組を使い分けて実施することが重要です。</p> <p>生態系サービスといった分かりにくい言葉の利用は避け、身近な問題である食べ物や水の問題などを取り上げることが必要です。</p> <p>大きなイベントはイベント会社が行うことが多いですが、その場合、生物多様性に関するキーワードは含まれているものの実際に活動していない方がパネリストになることが多いように感じます。それでは、一般市民に説得力を持ちません。里山で汗を流している市民団体のリーダーがパネリストになったほうが説得力を持ちます。</p> <p>基礎自治体として開催すべきイベントの内容を考えることが重要です。横浜市手作りのイベントを考えてはどうでしょうか。生物多様性という言葉は脇において、横浜の環境全体をどう保全し利用していくか、市民がどのように参加していくかを考えることが必要です。その結果として、生物多様性の概念が市民に伝わると良いと思います。</p> <p>コンセプトから始めるのではなく、具体的にどんな取組に誘導するかということから検討をスタートしてはどうでしょうか。横浜型のエコライフスタイルはキーコンセプトですが、それを始めに市民に伝えるのではなく、参加することが楽しいと感じられる取組から始めるのが良いと思います。例えば、横浜市には、多様な樹林地や農地、また、海も河川もあります。それらを体感する機会を提供すると良いと思います。</p> <p>アンケート調査のQ12で地域の環境活動への参加意欲についての設問がありました。「機会があれば参加したい」という回答が最も多い結果でした。さらに、追加の設問でどのような機会等があれば地域の環境活動に参加するかの設問があり、その結果、「興味のある活動が行われていけば行く」という回答が最も多くなっています。この結果を具体的な取組につなげるためには、興味のある活動は何かを聞くことが必要です。その際は、横浜市がどのような機会を提供できるかを想定して選択肢を作ると良いと思います。ただし、誘導になってはいけません。</p> <p>横浜市は既に様々な興味深い活動を市民に提供していると思います。それらを選択肢にすると良いと考えます。</p>
--	--

(事務局)	選択肢に具体的な取組を示すことで、市民の関心がどこにあるかを探ることも可能と考えます。
(進士部会長)	参加者数を増やそうとしなくても良いと思っています。活動のリーダー、義理で参加する層、活動を支援する層など様々な立場があって良いと思います。 アンケートをもとに施策を具体化するためには、役立つ設問を設定することが必要です。資料の説明の中で、生物多様性の認知度が減少していったことを気にしていましたが、その結果は、市民の「知っている」というレベルが上がったからと捉えることもできます。生物多様性について多くを知らない「知っている」と答えられない、という人が増えたのではないのでしょうか。アンケートの設問を設計する際に、そのような想定が必要ではないのでしょうか。
(亀屋委員)	Q33 の市の環境に関する取組の満足度の回答の真ん中が空白なのではなぜでしょうか。
(事務局)	「どちらともいえない」、「わからない」という回答を白抜きにしています。
(小堀委員)	「どちらともいえない」、「わからない」という回答が多くなっています。最近、アンケート調査を行う際に、「ふつう」という選択肢を入れないことがあります。「ふつう」という回答に対してはアプローチがしにくいからです。どちらかの回答を選択するように誘導することで、対応を考えることができます。
(事務局)	今後、アンケートについて工夫していきます。
(亀屋委員)	生物多様性に関する出前講座は平成 24 年度に 115 回開催ということですが、市内の小学校数を教えてください。どの程度の小学校が出前講座を利用しているのでしょうか。
(事務局)	市内の小学校は 343 校ですので、約 1/3 程度の小学校が出前講座を利用しています。
(進士部会長)	出前講座の講師には、どのような方がなるのでしょうか。
(事務局)	実際に活動を行っている人、行政、企業の 3 種類の方がいます。
(進士部会長)	現場を知っている人、事業を行っている人が講師になると良いと思います。
(事務局)	講師が誰になるかは、出前講座の内容によります。 主催者が出前講座のメニューから講座を選びます。講座によって、環境創造局政策課が行くこともあれば、事業を所管している部署が行くこともあります。例えば、緑アップならその専門家、下水道が対象になる場合は下水道の担当課の職員が講師となります。
(進士部会長)	従来、市民対応は微妙な問題でありました。しかし、現在はその状況が変わってきています。成熟した社会となり互いに相手を理解する余裕ができているため、実際仕事を行っている人が出前講座の講師となり、市民に伝えることも可能となっています。 出前講座では、行政の考えや、これまで行ってきた努力を伝えたら良いと思います。

	<p>環境管理計画で伝えたいことは、どのような場面においても一元的に伝わるのが重要です。イベントによっては、テーマを絞った話になることがありますが、伝えたいことは一元的である必要があります。</p> <p>そのためには、アンケートの調査結果については、様々な部門から核となる担当者が集まり、結果をどのように分析するか意見交換を行うと良いと思います。それにより、個々の政策が相互に関係するようになると思います。</p> <p>行政の担当者はそれぞれの担当の分野を中心に考えがちです。公園の管理を担う課は、生物多様性の問題を緑化の問題だと捉えることが考えられます。都心で生物多様性を保全するためには、公園は重要な拠点ですが、担当課としては、緑の量を増やすことだけに注力してしまうことも考えられます。</p>
(事務局)	進士部会長のご指摘の通り、環境創造局では、縦割りの取組だけでなく、分野横断的な取組が必要であると認識し、取組を進めているところです。
(進士部会長)	政策は、計画となり事業となります。事業になるまで、分野横断的な考えが必要です。例えば、みなとみらい21はどうでしょうか。
(事務局)	みなとみらい21については、生物多様性の拠点とすることを考えて、動き出そうとしているところです。
(進士部会長)	環境創造局としては是非取り組んで欲しいと思っています。
(事務局)	環境創造局は、地球温暖化対策と生物多様性の取組を二つの基軸として事業計画を立てています。
(進士部会長)	良いと思います。地球温暖化対策と生物多様性のために取り組んでいるかが、事業計画のチェックポイントの1つになると良いと思います。 地球温暖化対策と生物多様性の視点での政策調整が必要だと考えます。
(事務局)	資料7の説明
(小堀委員)	<p>資料7、22ページ、環境行政のあり方が記述されている場所で、アンケート調査結果のグラフが示されていますが、なぜ、ここで取り上げたのか意図が分かりません。この結果を見ることで、追加の取組は必要ないと判断する人もいると思います。</p> <p>横浜市としての生物多様性の捉え方を整理することが必要ではないかと思っています。例えば、ニュージーランドでは生物多様性が環境行政の最重要課題となっています。</p> <p>経済活動等による環境負荷をどれだけ地球が受け入れられるかを示す値として環境容量があります。現在の私たちの生活は環境容量を超えた負荷を生じています。それでも、日本において比較的生物多様性が良い状態にあるのは、ほかの国に負荷を負わせているからと考えられます。</p> <p>私たちの経済活動の基盤であり、私たちの暮らしや食べ物や木材、いろいろなものは、生物多様性が健全ではじめて生み出されるものです。生物多様</p>

	<p>性をいかに持続的に利用していくのかという横浜市としての基本的な考えが見えません。</p> <p>生物多様性が最も大きなフレームです。生物多様性が地球温暖化に耐えられるのは、2度が限界だと言われています。つまり、地球温暖化の政策も生物多様性が持っているキャパシティを超えないようにすることが重要ということです。</p> <p>今、私たちの生活は持続不可能になっています。私たちが生きていられるのは、原資を食いつぶしているからです。そのような状況がいつまでも続くわけではありません。そのことが今の資料では伝わりません。生物多様性の基本的な認識を「見える化」してほしいと思います。</p> <p>緑を守るとはどういうことなのか。地球温暖化と生物多様性が2本柱であるというのであれば、2つの柱のリンクが必要です。例えば、ヒートアイランドを緑で緩和する、といったことです。</p> <p>本答申では、環境施策の最も重要な2つの柱の一つとして生物多様性を位置付けていることは大いに評価ができますが、生物多様性の持続的な利用と維持がさらなることで、多様な環境問題が生じていると考えています。別の言い方をすると、生物多様性を保全し、持続的に利用することで、生き物の生息環境、治水、利水、私たちの経済、活動、日々の暮らしは支えられていきます。そのような理解や姿勢が現在の資料からは読み取れません。</p> <p>(進士部会長) 小堀委員からの指摘は大きく分けて2つあったように思います。</p> <p>1つ目に、22ページで、生物多様性の認知度の話がでています。その調査結果を受けて、生物多様性の取組を行っているように見えますが、そうではないと思います。まず、生物多様性の背景をきちんと整理することが必要です。</p> <p>2つ目に、現在の資料では第4章から生物多様性の話が始まっているように見えますが、実は、第3章でその他の取組とともに生物多様性についても記述した上で、生物多様性を特に取り出して、4章という新しく章で詳細に記述しています。ただ、現在の記述方法では、それが読み取れません。生物多様性を主流化する理由は、そうする必要がある時代にあるからです。その認識を第3章までに述べてから、第4章につなげると良いと思います。生物多様性を主流化していくという狙いは良いと思いますが、記述方法を事務局で検討してほしいと思います。</p> <p>(事務局) アンケートで生物多様性の認知度が低いから、生物多様性に対する取組を行います、といった流れであるという誤解を与えてしまったのだと思います。生物多様性の基本的な概念、生物多様性の重要性や、横浜市の取組の基本姿勢を整理し、そこから施策につなげるように答申を修正します。</p> <p>(進士部会長) 生物多様性の重要性については、4章より前に整理し、新たに取り組むべきことについては第4章に整理すると良いでしょう。</p> <p>(佐土原委員) 大きく分けて3点の意見があります。</p>
--	---

	<p>1 つ目は、小堀委員からもご意見がありました。つながりをしっかり表現することが重要だと思います。大都市における生物多様性が現在の問題の大きな原因になっているということ意識できるストーリーをつくってほしいと思います。</p> <p>2 つ目は、取組を行わなければならない背景があまり語られていない感じがします。震災に関する記述はありますが、例えば、人口減少で都市に変化が求められていることや、IT の発展があるというベースがあって、政策につなげることが大事だと思います。つまり、社会的な大きな流れに触れておく必要があると思います。</p> <p>3 つ目は、適応策という言葉が答申案に入っていないことについてです。これから、地球温暖化の適応策は重要なキーワードとなってきますので、新しい環境管理計画で盛り込んでおくことが必要であると考えます。</p> <p>(亀屋委員) これまで 2 回の提言と比較して、横浜スマートシティやスマートシティプロジェクト等の言葉がよく出てきます。この言葉は、環境未来都市とどのように違うのでしょうか。急に出てきた言葉のように感じました。スマートシティという言葉が示す範囲をどこかで整理しておく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>(事務局) 横浜市として目指している将来像が環境未来都市です。環境未来都市とは、地球温暖化対策だけでなく、生物多様性やエネルギー、高齢者の対応も含めて幅広く取り組む横浜の将来像として位置づけており、スマートシティはその中の一部です。例えば、みなとみらい 21 の中で、自立型のエネルギーを導入する、地域冷暖房の相互利用を進めること等が関係します。ご指摘を踏まえて表現を修正します。</p> <p>(進士部会長) 平成 23 年度の提言は、東日本大震災を意識してどうするか、という記述になっています。平成 23 年度の提言をまとめる際に、東日本大震災は、20 世紀型文明から 21 世紀型の環境の世紀へ、国や都市のありようが変化する、象徴的な出来事として捉えるべきだという話をしました。</p> <p>従来の環境管理計画は、典型七公害が問題となっており、公害対策局があった時代の延長上の計画でした。しかし、個別の分野別の計画が充実し、環境管理計画が総合的に環境全体を捉える時代がきました。まさに、パラダイムシフトになったと思います。その象徴的な事象が科学技術を結集した原子力発電所の事故やハードで対応する防潮堤だけでは対応ができなかった津波による被害だと思います。今後は、トータルで環境問題を対応しなければなりません。</p> <p>平成 23 年度の提言は、東日本大震災をトピックスとして前面にだしていましたが、震災をきっかけとして時代が変化している、環境管理計画でもそれを意識する必要がある、というストーリーにしたと記憶しています。</p> <p>過去 2 年間の提言を編集するだけでなく、現時点の状況にあった記述に修正する必要があります。つまり、東日本大震災が文明史的な転換点であったこと、環境行政は大転換を図る必要に迫られたということです。</p>
--	--

生物多様性の主流化等、時代の行政を前面に打ち出して進めるということが環境未来都市です。

なお、市政全体の中の環境部門ではなく、市政全体が環境に関連するということが必要であることが答申の冒頭にあると良いのではないのでしょうか。

今の時代の環境行政のあり方を示す際に、バックグラウンドとして新時代の環境行政とはこういうことだ、という認識をわかりやすく書いてあると良いと思います。現在の資料においても、その内容は散りばめられているので、それを整理することが必要です。

その他に、細かい点で2つ気づいたことがあります。

1つ目は、10 ページからのイラストについてです。部門ごとで作成したイラストを集めた結果だと思いますが、みなとみらい21の図に緑が示されていないことが気になります。水と緑のネットワークの図でもみなとみらい21のところには緑がありません。これは、水と緑のネットワークの図が保全上重要な場所を示しており、緑を創出する拠点を示していないからだと思います。事務局で総合調整をしてほしいと思います。

また、11 ページは都心、12 ページは郊外についてのイラストがあります。どこからどこまでが都心で郊外かは分けられるのでしょうか。せめて連続性があると良いと思います。現在のイラストでは、都心の公園も、郊外の公園も木が5本あって、噴水があります。記号だから問題はないですが、面白みがありません。イラストの木に多様性を持たせてはどうでしょうか。横浜の特色は、区が個性的であることだと思います。生物、ランドスケープ、ライフスタイル等が各区で多様であり、それが持続可能な横浜のベースになっています。全ての地域で中区のライフスタイルであったとすると、持続不可能だと思います。様々なスタイルがあるから全体的にサステナビリティが高い市になっているのです。そういうことがこの11 ページ、12 ページのイラストに描かれることが理想です。

2つ目は、14 ページ以降の記述方法についてです。「環境と人・地域社会」「環境と経済」「環境とまちづくり」という3つの柱に分けて整理していますが、その整理方法は分かりやすく良いと思います。

「これからの環境行政のあり方」のア、イ、ウ・・・の順番が気になります。記述する場合、その順番に法則性を持たせると読みやすいのですが、現在の資料では、順番に法則性があるように感じません。例えば、全体を記述してから各論を記述する、ハードについて記述してからソフトについて記述する、重要またはアピールしたい順に記述する等が考えられます。

15 ページの場合、普及啓発を行ったあと、それが定着し、その後にエリアマネジメントを実施するといった、ストーリーができると思います。3つの取組が相乗効果をもち、実効性を高めることが重要です。

17 ページの場合、ビジネスチャンスの拡大が示された後に、水ビジネス、観光といった個別の分野の話につなげているのだと理解しました。



	<p>20 ページ、「多面的機能を持つ公園の整備・再整備」という項目がありますが、この内容は 11 ページ、12 ページの横浜が目指す将来の姿のイラストに示されていません。</p> <p>公園の整備は日常業務ですので、わざわざ重点として、3 章で示す場合は、どこを重点とすべきかについて記述することが必要です。例えば、公園を拠点として連続したエコシステムを創出する、川から海につながって海の生態系までサポートする、そういう公園に変えていく等の取組が必要なのではないのでしょうか。環境管理計画にはフィロソフィーが必要です。</p> <p>データは提案の途中ではなく、答申の最初に示しておき、提案の部分では、横浜市の考えやコンセプト、思想を打ち出し、具体的な取組を示してはどうでしょうか。表現を工夫してメッセージ性を高めると良いと思います。</p> <p>(事務局) 事務局で答申案の修正作業を進め、委員の先生方にお送りするようにいたします。次回の環境創造審議会については、答申の修正状況をみながら開催の有無を検討し、委員の先生方に連絡いたします。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>1. 資 料 資料 1 : 横浜市環境創造審議会基本政策部会委員名簿 資料 2 : これからの環境行政のあり方について (平成 23 年 7 月 5 日 第 14 回横浜市環境創造審議会資料) 資料 3 : 平成 24 年度新たな「横浜環境基本計画」取組実績報告書 (年次報告書速報版) 資料 4 : ヨコハマ b プラン (生物多様性行動計画) 2 か年 (平成 23~24 年度) の報告と今後の考え方 資料 5 : ヨコハマ b プラン (生物多様性行動計画) 2 か年 (平成 23~24 年度) の報告 資料 6 : 平成 25 年度環境に関する市民意識調査の結果について 資料 7 : これからの環境行政のあり方について (答申案)</p> <p>2. 特記事項 なし</p>